

2020 年度ゼミ（3003 演習 2A／3004 演習 2B）要覧

担当者名	戸谷 浩
演習テーマ	ヨーロッパ研究と近現代史
校外実習	○ 1、実施しない 2、実施（実施時期： 年 月）
メール・アドレス	toya@k.meijigakuin.ac.jp
オフィス・アワー	月曜 3 限（昼休みも可）
2021 年度に開講しない可能性（在外研究・特別研究）	開講予定
授業概要	<p>2A では卒業論文のテーマを各自が絞り込んで行くことを一つの目標とする。それを補助する意味で、ヨーロッパ史や近現代史に関連する書籍を輪読してゆく。各自の研究計画も作成してもらい、卒業までの 2 年間の時間の使い方、研究の積み上げ方を意識してもらおうつもりである。</p> <p>2B では、4 年生の春学期に予定しているゼミでの「卒業論文中間報告会」に向けて、まずはゼミ内で「卒論中間報告」を行ってもらおう。それに加えて、共通の知識や理解を深めることのできる書籍を輪読する（同趣旨のグループ・ワークを行うこともある）。</p>
学習目標	<p>卒業論文の完成に向けた研究計画表を作成するとともに、ヨーロッパ史やヨーロッパ文化に関する各自の基礎知識を深め、卒業論文のテーマを確定して行って欲しい。</p> <p>同じゼミに属する他のメンバーのテーマを、自身のものごとくに共有することも、本ゼミにおいては重要と考える。自身の興味関心に興味を湧くことはある意味で当然のことであるが、他人の興味関心も理解できる力は尊いと考えからである。2B では、ゼミ内の「卒論中間報告」を経て、翌年度の春学期に外部者に向けて開かれる「卒業論文中間報告会」への第一歩を踏み出してもらいたい。ゼミ内外からの批判や助言を得て、より充実した、独りよがりでない論文に仕上がってゆくものと考えている。</p>
授業計画	<p>【第 1 回】オリエンテーション</p> <p>【第 2 回】「研究計画表」について</p> <p>【第 3 回】「研究計画」のプレゼンテーション（1）</p> <p>【第 4 回】 同（2）</p> <p>【第 5 回】 同（3）</p> <p>【第 6 回】 同（4）</p> <p>【第 7 回】 同（5）</p> <p>【第 8 回】 輪読書の選定</p> <p>【第 9 回】 輪読と発表（1）</p> <p>【第 10 回】 同（2）</p> <p>【第 11 回】 同（3）</p> <p>【第 12 回】 同（4）</p> <p>【第 13 回】 同（5）</p> <p>【第 14 回】 夏休みの課題と秋学期に向けて</p> <p>【第 15 回】 オリエンテーション</p> <p>【第 16 回】 「卒論中間報告」について</p> <p>【第 17 回】 「卒論中間報告」（1）</p> <p>【第 18 回】 同（2）</p>

	<p>【第19回】同(3)</p> <p>【第20回】同(4)</p> <p>【第21回】同(5)</p> <p>【第22回】輪読書の選定</p> <p>【第23回】輪読と発表(1)</p> <p>【第24回】同(2)</p> <p>【第25回】同(3)</p> <p>【第26回】同(4)</p> <p>【第27回】同(5)</p> <p>【第28回】春休みの課題と「演習3」について</p>
予習	各回の指定書籍の熟読やプレゼンテーションへの準備を怠らないこと。
復習	各回の学びや発見が、自身のテーマにどのようにつながってゆくのか再考すること。
授業に関する注意事項	演習は集団での作業となるが、個人的なテーマの絞り込みや卒論執筆への準備は、他方で常に心がけておくこと。授業内では個人の卒論テーマに集中して深めることはできないので、他者の報告を聞いたり、集団での作業の中においても、常に個人の卒論テーマにつなげる努力をすること。
教科書	特に定めず
参考書	授業時に輪読書の候補として提示する。
成績評価の基準	平常点40%、プレゼンテーション60%
関連 URL	なし
備考	特になし